

式 辞

本日はご卒業おめでとうございます。ご臨席を賜りました来賓の皆さま方と、宮崎学習センター職員一同とともに、心よりお祝い申し上げます。

宮崎学習センターでは、今期9名の卒業生を送り出すこととなりました。

今年度、当センターは開設 30 周年を迎えますが、双方向のウェブ授業で面接授業を代替できるようになったこともあり、近年では一度もセンターにお越しにならずに卒業される方が多数派になりました。

通信制の学びは学生各自の自主性に任され、それぞれのライフスタイルに合わせて自宅等で受講しますから当然なのですが、少々寂しくもあります。本日までご出席の皆様には旧日向市図書館のレトロモダンな建築と、職員による心尽くしのコーディネートを楽しんでいただければ幸いです。

さて、本学に学ぶ皆さまの目的は、凡そ資格取得やキャリアアップのための学修と、仕事の必要というよりも学ぶこと自体を楽しみ、人生をより豊かにしていくための学修に大別されます。

前者はリスキリングやリカレントに、後者は Lifelong learning(生涯学習)に対応し、年齢層も前者は 30 代から 40 代、後者は60代以上に分かれがちです。

ただ、本学においては、いずれも専門学部ではなく、教養学部における学びであることに変わりはありません。

したがって、専門分野の先端的な知を学ぶのではなく、より普遍性のある基本的な知を広く学ぶことになります。

教養の学びによって育まれるのは、想像力もとづく直観的判断力と、多様な思考

を受容できる寛容さでしょう。ますます複雑化する世界にあって、それらは自主的に判断を下し、他者と共生しながら生き抜くための最も必要な能力といえます。

日頃、私も本県の文化財保護に関わっているのですが、国指定重要文化財に関わる有名なエピソードがあります。東京都の古刹である圓融寺の釈迦堂を解体修理した際に、室町時代の創建時に棟梁が遺したと考えられる墨書が出て参りまして「わが手よし、人見よ」と書かれていたそうです。修理に当たった昭和の棟梁も応えて墨書したのですが、皆さまなら何とお書きになりますか？昭和の棟梁は「その手よし。我は見たり」と書いて納めたそうです。

いま目にしているものを直ちに良いと直観できる判断力や、何百年もの時を超えて作り手と対話できる能力は、まさに教養の力につながるものだと思います。

AI について様々に取り沙汰される昨今ではありますが、強力な計算機という道具から繰り出される答えの嘘を見抜くのも、偏りのない良質なデータを選んで読ませるのも人間に他なりません。

卒業生の皆さまには、本学の学びで培われた「教養力」を仕事や生活の局面に活かして、ご自身が主役の豊かな人生を歩まれますように、ご祈念申し上げます。

結びに、忙しい仕事や家事の寸暇を惜しんでたゆまず勉学に励まれ、本日を迎えられる皆さま全員に深く敬意を表しまして、式辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年9月26日

放送大学宮崎学習センター所長 石川千佳子